

第2回 福知山市新文化ホールについて考える市民懇談会 開催結果報告

【日時】 令和6年11月27日(水)
19:00～20:30

【場所】 福知山市厚生会館 大ホール

11月27日の第2回市民懇談会は、合計34名の方にご参加いただきました

市民懇談会の対象者及び参加者構成

■市民懇談会対象者構成

項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	総計
女		11	9	14	9	12	7	62
男	1	5	7	13	10	25	20	81
総計	1	16	16	27	19	37	27	143

■11月27日第2回市民懇談会参加者構成

項目	10代	30代	40代	50代	60代	70代	未回答	総計
参加者数	1	1	7	6	10	8	1	34

市民懇談会では厚生会館や近隣ホールの運営状況等を紹介し、規模に関して意見交換をしていただきました

第2回市民懇談会の進め方

■第2回市民懇談会の風景



別紙

「福知山市新文化ホールについて考える
市民懇談会（抜粋版）」をご覧ください

資料2

抜粋版

福知山市新文化ホールについて考える市民懇談会

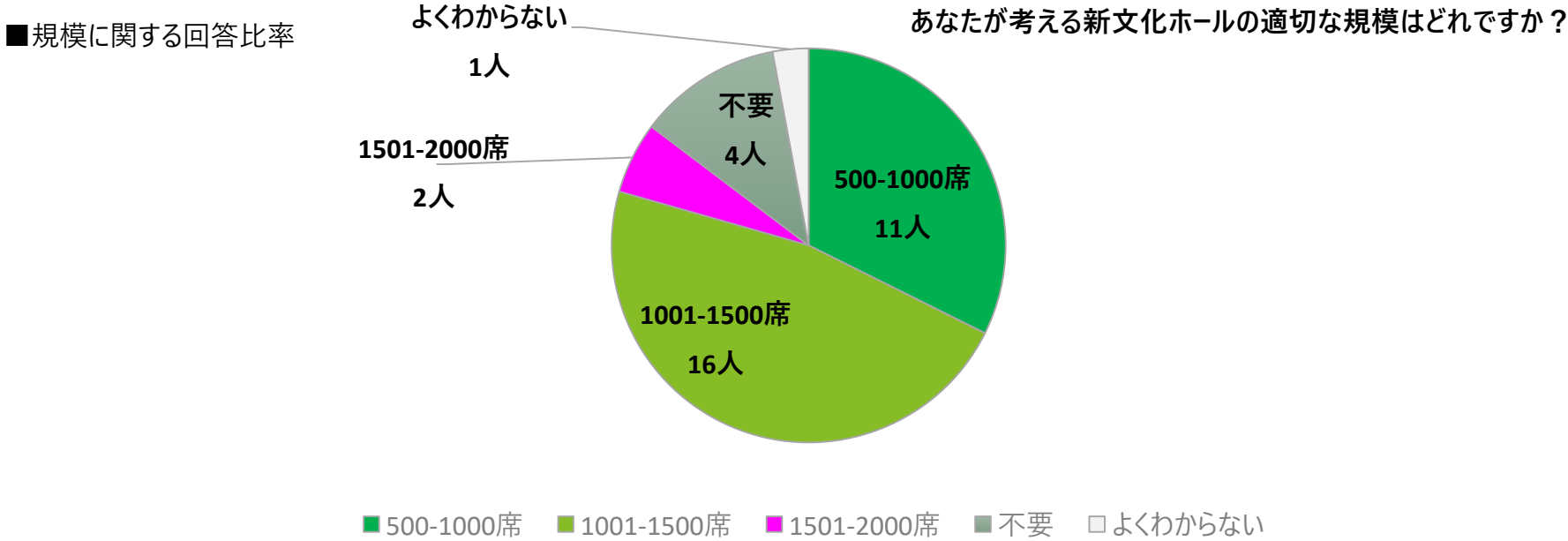
第2回 新文化ホールの再検討に向けて、数字で考える

R6 年 11 月 27 日（水） 19 時 ～

福知山公立大学 地域経営学部
木村昭興（Akinori KIMURA）

最初に「新文化ホールの適切な規模」について個人ワークをしていただきました

市民懇談会で得られた結果



■ 世代別詳細

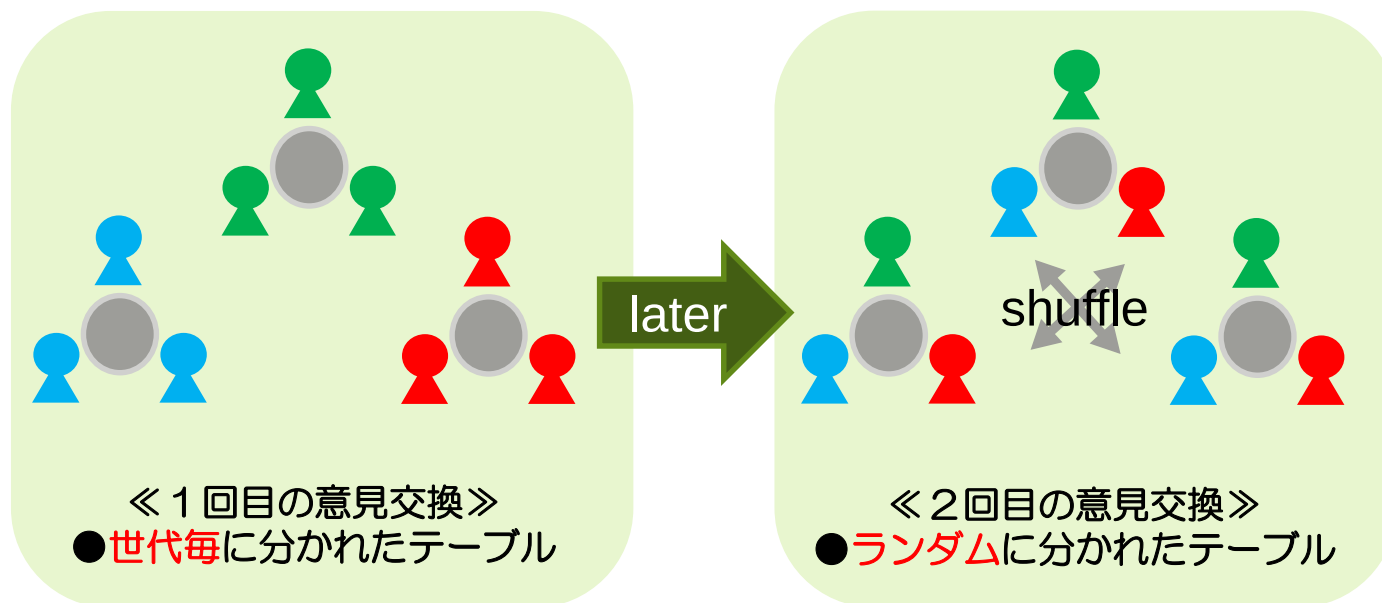
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
500-1000席				2	1	5	3		11
1001-1500席	1		1	5	2	3	4		16
1501-2000席						1	1		2
不要				1	2	1			4
よくわからない					1				1
	1		1	8	6	10	8		34

第2回市民懇談会では新たな意見交換手法を取り入れました

新たな意見交換手法 「ワールドカフェ方式」

※ワールドカフェ方式とは…

終始同じテーブルを同じメンバーで囲み議論を行う会議とは異なり、少人数に分かれたテーブルで自由に対話し、他のテーブルとメンバーを交代して対話を続ける方式。最初のテーブルで対話した参加者に限らず他の参加者の意見や知識を集めることができる。多くの参加者と意見を交わしてお互いの理解を深め、新たな気づきを得ることを目的とする。



最初は世代毎に集まったテーブルで意見交換を行い、その後、自分のテーブルを離れ、様々な世代の方と意見交換を行うことで、多面的な意見交換に繋がりました

「ワールドカフェ方式」による意見交換事例

参加者Yさん：40代：女性
Bテーブル⇒Eテーブルへ移動

Bテーブル

【規模】全員が「1001-1500席」を希望

「中核都市だから一定規模のものを建てるべき」
「有名アーティストが来て利益を出すのは難しい」
「小・中学生が一堂に集まれる規模がいい」

Eテーブル

【規模】3人「1001-1500席」を希望
1人は「不要」

「都会でしか見れないものを福知山でも見たい」
「肉眼で出演者を確認できる規模感がいい」
「パフォーマーとしてはホールは大きい方がいい」
「せめて収支が均衡しなければホールは不要」
「有名アーティストが来てくれると嬉しい」

参加者Oさん：30代：女性
Bテーブル⇒Cテーブルへ移動

Cテーブル

【規模】3人が「500-1000席」を希望
1人が「1001-1500席」を希望

「外から人を呼ぶことよりも、まずは市民のために発表や鑑賞ができる場であってほしい」
「有名なアーティストがくる場」
「こじんまりとしたホールで十分」

上記のようにテーブルが入れ替わることで、2回目のテーブルでは1回目のテーブルだけでは出されなかった議論が展開され、多面的な意見交換に繋がった

各テーブルでは参加者同士で様々な思いが語られ、積極的な意見交換が行われました

意見交換の概要

1. ホールの規模について

- ・参加者の多くが「500～1000席」「1000～1500席」規模に集中している。
- ・大規模ホールが経済的に持続可能でないとの懸念から、小規模ホールを支持する声もある。
- ・一部では、「大ホールではなく、多目的利用可能な中規模ホールが良い」との意見も。

2. 費用と財政面の懸念

- ・多くの市民が50億円規模の建設費を高額と感じており、その負担が市の財政や市民税に及ぼす影響を心配。
- ・赤字を前提とした運営に対して疑問の声が多く、市がどのように費用を賄うか明確にする必要があるとの意見。

3. 文化ホールの目的と利便性

- ・地元住民や学生による発表会、地域経済の活性化、プロの公演開催など、多目的な利用が提案。
- ・駐車場の確保、アクセス方法の検討、防災機能の付加といった具体的な要求も提示される。

4. 場所の選定

- ・現行の厚生会館の立地は浸水リスクが高いと指摘。
- ・新たなホールを建設する場合、交通の便や地域全体の活性化を考慮した適切な場所選定が必要とされる。

皆様の回答結果を踏まえ、**500-1000席規模**と**1001-1500席規模**について規模を絞り、比較を行います

The left side of the slide features two large, overlapping green geometric shapes. The top shape is a dark green parallelogram. Below it is a larger dark green trapezoid. A light green triangle is positioned at the bottom, partially overlapping the dark green trapezoid.

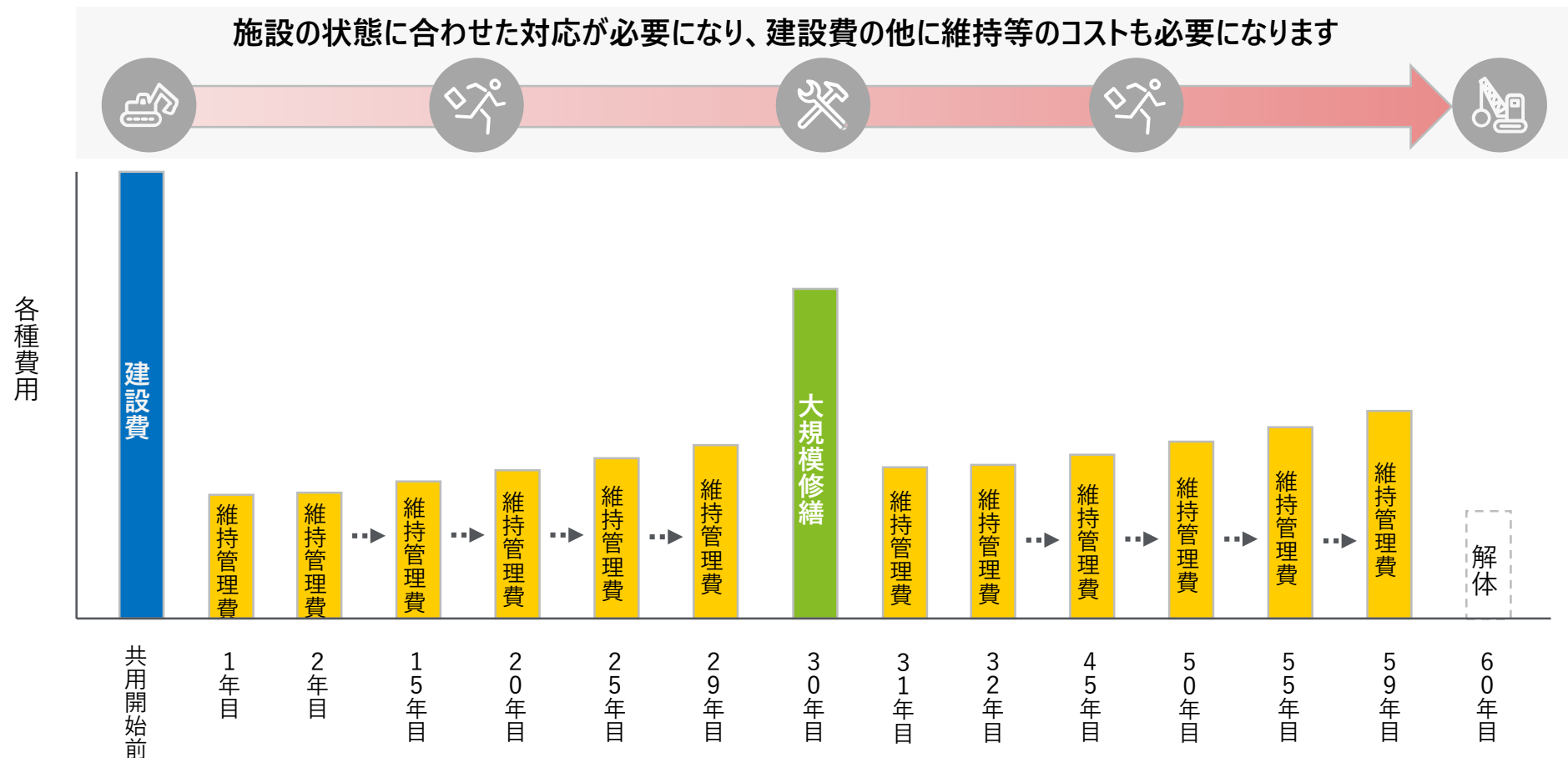
規模について

福知山市

比較にあたっては様々な方法が考えられますが、将来にわたる持続性や負担に与える影響が大きい費用面の確認を行います
費用は、建設・維持管理・大規模修繕の視点から他事例数値を用い簡易試算します

施設の建設から解体までの費用発生のイメージ

※あくまでイメージ図であり、棒グラフの長さは実態の費用割合を示すものではない部分にご留意ください



簡易試算では、どの程度の費用感の違いが出る可能性が高いのかのイメージを持っていただくため、金額への影響が大きい、建設費・維持管理費・大規模修繕費を参考に調査・試算しています

※実態としては、突発修繕費・不定期に発生する機器メンテナンス費・部分改修費・長寿命化対策費に加え、ニーズ変化に合わせた機器・設備更新費、法令改正等による対応費なども追加となるケースがあり、簡易試算値より高い事業費になることが想定されます

建設費や維持管理費については、延床面積に応じて費用が増加することが多いため、 ㎡単価に置き換えた数値の平均値を簡易試算に活用します

500～1,000席規模の平均値									平均5,892㎡	平均86万円	平均1.6万円
名称	住所	開館年	建物延べ面積 (㎡)	席数		建設費等（億円） /記載用語	建設費単価 (万円/㎡)	維持管理費 (万円/年)	維持管理単価 (万円/㎡/年)		
				ホール 1	ホール 2						
五泉市交流拠点複合施設	新潟県五泉市	2021年10月	3,700	500		30 /総事業費	81	7,560	2.0		
横浜市港南公会堂	神奈川県横浜市	2021年5月	5,941	525		40 /事業費	67	6,589	1.1		
西脇市市民交流施設	兵庫県西脇市	2021年5月	4,448	602		70 /全体建設費	157	-	-		
別海町生涯学習センター	北海道野付郡別海町	2022年4月	5,029	611		45 /整備費	89	-	-		
養父市立やぶ市民交流広場	兵庫県養父市	2021年9月	4,202	651		44 /総工費	105	-	-		
野口遵記念館	宮城県延岡市	2022年12月	4,200	675		30 /建設費	71	8,481	2.0		
氷見市芸術文化館	富山県氷見市	2022年10月	10,455	788		44 /建設費	42	15,691	1.5		
新宮市文化複合施設	和歌山県新宮市	2021年10月	6,500	801		62 /総事業費	95	-	-		
四万十市総合文化センター	高知県四万十市	2024年4月	6,900	805		85 /総事業費	123	9,900	1.4		
みやま市総合市民センター	福岡県みやま市	2022年10月	5,750	805		45 /事業費	78	-	-		
指宿市民会館	鹿児島県指宿市	2022年7月	5,250	805		32 /事業費	61	-	-		
境港市民交流センター	鳥取県境港市	2022年7月	6,870	808		44 /工事費	64	-	-		
遠軽町芸術文化交流プラザ	北海道紋別郡遠軽町	2022年8月	7,348	610	252	60 /総工費	82	-	-		
薩摩川内市川内駅コンベンションセンター	鹿児島県薩摩川内市	2021年1月	6,309	1001		47 /総事業費	74	12,898	2.0		
平塚文化芸術ホール	神奈川県平塚市	2022年3月	7,580	1200	200	69 /総工費	91	-	-		
小田原市民ホール	神奈川県小田原市	2021年9月	8,860	1105	296	63 /整備費	71	27,103	3.1		
浜松市市民音楽ホール	静岡県浜松市	2021年6月	6,388	1414		42 /建設費	66	20,878	3.3		
磐田市民文化会館*	静岡県磐田市	2022年7月	7,320	1508		60 /総工費	82	-	-		
1,000～1,500席規模の平均値									平均7,291㎡	平均77万円	平均2.8万円

*1500席を上回るが、わずかであるため、対象として計上

大規模修繕費については、対象の修繕範囲や導入されている舞台等の機器のグレードに応じて異なるため、m²単価とはせず、実績値の平均を簡易試算に用います

名称	住所	開館年/ 修繕年	席数		建物延べ 面積 (m ²)	大規模 修繕費 (億円)	修繕内容
			大ホール	その他 ホール			
鈴鹿市文化 会館	三重県 鈴鹿市	1988年/ 2023年～ (開館後36年)	506	－	5,980	20	・ホール吊り天井の改修（耐震改修） ・外壁補修（タイル落下の危険を回避） ・現行法令に適合した改修（エレベーター、ホール座席仕様など） ・老朽化した設備の更新（高低圧電気、空調、消防設備など） ・ホール舞台機構・照明・音響設備の更新 ・ホール座席の更新・さつきプラザの間仕切パネル更新 ・プラネタリウムを映像ドームに改修 ・プラネタリウムギャラリーを展示（多目的）スペースに改修 等
北本市文化 センター	埼玉県 北本市	1984年/ 2025年～ (開館後42年)	726	－	7,768	30*	・建築工事 屋上・外壁改修、内装改修、バリアフリー対応等 ・電気設備工事 受変電設備の整備、照明・コンセント改修等 ・機械設備工事 給排水衛生設備の改修、空調・換気及び防災設備の更新等
松江市総合 文化センター	島根県 松江市	1986年/ 2021年～ (開館後36年)	750	－	7,606	24	・大ホール・ホワイエ天井の耐震化・パイプオルガンのオーバーホール ・大ホール客席の更新 舞台床の改修・全館Wi-Fi化 授乳室・学習室の新設 等
雲南市加茂 文化ホール	島根県 雲南市	1995年/ 2024年～ (開館後30年)	1000	－	－	20	・屋根防水、外壁塗装改修工事・風除室増築工事・機械室防水改修工事 他
朝来市和田 山ジューピター ホール	兵庫県 朝来市	1992年/ 2024年～ (開館後33年)	800	200	4,144	17	・建物外部の改修工事：① 大ホール・ステージ屋根等② 避難デッキ・屋外避難階段等③ 外壁（アスベスト含有建材）等 （２）建物内部の改修工事 大ホール、ホワイエハーサル室、楽屋、事務室、会議室、壁、天井、廊下、ホール客席の天井を耐震化施工、EV新設、授乳室新設、舞台吊物機構の更新など （３）電気設備工事 （４）機械設備工事
八王子市芸 術文化会館	東京都 八王子市	1994年/ 2022年～ (開館後28年)	802	228	14,794	62	① 可動床の固定：利用頻度の高いプロセニウム形式で床を固定する。 ② 客席の更新：既存の客席を更新する。客席照明を LED 照明とする。 ③ 舞台音響設備更新：機材をデジタル化する。プロジェクターの設置 ④ 舞台照明設備更新：舞台照明を LED 化する。調光回路の削減を行う。 ⑤ 舞台機構設備更新：竣工以来交換を実施していない舞台装置の交換を行う。 ⑥ 特定天井：既存の天井撤去、天井内のダクト等の内装を黒色に塗装 ⑦ その他：釘打ちができるように舞台床をフローリングから白木へ張替えを行う。小ホールホワイエにエレベーターを新設する。演劇の上演にも適した内装とする。

大規模修繕費については、対象の修繕範囲や導入されている舞台等の機器のグレードに応じて異なるため、㎡単価とはせず、実績値の平均を簡易試算に用います

名称	住所	開館年/ 修繕年	席数		建物延べ 面積（㎡）	大規模 修繕費 （億円）	修繕内容
			大ホール	その他 ホール			
浜松市浜北文化センター	静岡県 浜松市	1981年/ 2024年～ (開館後44年)	1,208	306	9,080	42	建築工事...屋根改修、外壁補修、内装改修、建具改修等 電気工事...受変電設備改修、電灯設備改修、大・小ホール音響更新等 機械工事...空調設備改修、給排水衛生設備改修、消火設備改修等 その他 ...太陽光発電設備設置
佐野市文化会館	栃木県 佐野市	1979年/ 2024年～ (開館後46年)	1,224	306	7,540	70	・音響や空調設備、消防消火設備、給排水設備の老朽化 ・ホールの吊り天井構造の改修、屋上防水の修繕 ・外壁、建具の補強、修繕 ・ランニングコストが高い設備機器及び操作性の悪い機器の改善 ・バリアフリー、ユニバーサルデザインの配慮
八尾市文化会館	大阪府 八尾市	1988年/ 2021年～ (開館後34年)	1,326	334	14,658	45*	・大ホール・光のプラザの特定天井の改修 ・老朽化が著しい舞台設備（機構、照明、音響）の改修 ・老朽化の著しいトイレや外壁・屋上防水の改修 ・計画更新年を超える主要設備の改修 ・多目的トイレ改修、案内サインの改修、手摺、授乳室の設置 ・交流機能の充実、賑わい創出に向けた改修、各諸室の機能充実に向けた改修

大ホール1,000～1,500席規模の平均値

平均52.3億円

*25億円分を先行実施し、2032年に残り部分を実施予定

席数規模により、どの程度金額に影響するかを確認するための簡易試算を行いました 簡易試算の段階では、60年間の期間で90億円強の違いが想定されます

費用の比較

試算に用いた数値は、極力近年の物価に近い数値とするため、
近年（2021年～）の事例を参考に抽出しています
※次々頁以降に参考とした他事例の数値を掲載

簡易試算 内容について

一般的には、想定する事業内容に合わせて、類する事例での事業費の確認や民間事業者様への見積もり依頼などを行い、概算費用を試算しますが、現状は席数による規模感を踏まえた費用感の確認段階ですので、該当する規模感の事例を広く確認し、その平均的な数値を用いて試算した数値になりますので、一定の幅での変動が想定される数値であることにご留意ください
※加えて、次ページに掲載する近年の物価上昇の影響も受けるため、事業費は増加する可能性が想定されます

500～1,000席

（710席規模で簡易試算_近年の建設費公表事例の平均）

簡易の全体事業費：137億円（60年間）

他事例平均等から想定される建設費：約51億円
→ $5,892\text{m}^2 \times 86\text{万円} \div 51\text{億円}$

他事例平均等から想定される維持管理費（60年）：約57億円
→ $5,892\text{m}^2 \times 1.6\text{万円} \times 60\text{年} \div 57\text{億円}$

大規模修繕（30年目）：約29億円
→該当事例の平均値28.8億円を参考に計上

■他事例平均等から設定した簡易試算の施設イメージ

延床面積
5,892 m^2

建設費単価
86万円/ m^2



大規模修繕費
28.8億円

維持管理費単価
1.6万円/ m^2

1,001～1,500席

（1345席規模で簡易試算_近年の建設費公表事例の平均）

簡易の全体事業費：230億円（60年間）

他事例平均等から想定される建設費：約56億円
→ $7,291\text{m}^2 \times 77\text{万円} \div 56\text{億円}$

他事例平均等から想定される維持管理費（60年）：約122億円
→ $7,291\text{m}^2 \times 2.8\text{万円} \times 60\text{年} \div 122\text{億円}$

大規模修繕（30年目）：約52億円
→該当事例の平均値52.3億円を参考に計上

■他事例平均等から設定した簡易試算の施設イメージ

延床面積
7,291 m^2

建設費単価
77万円/ m^2



大規模修繕費
52.3億円

維持管理費単価
2.8万円/ m^2

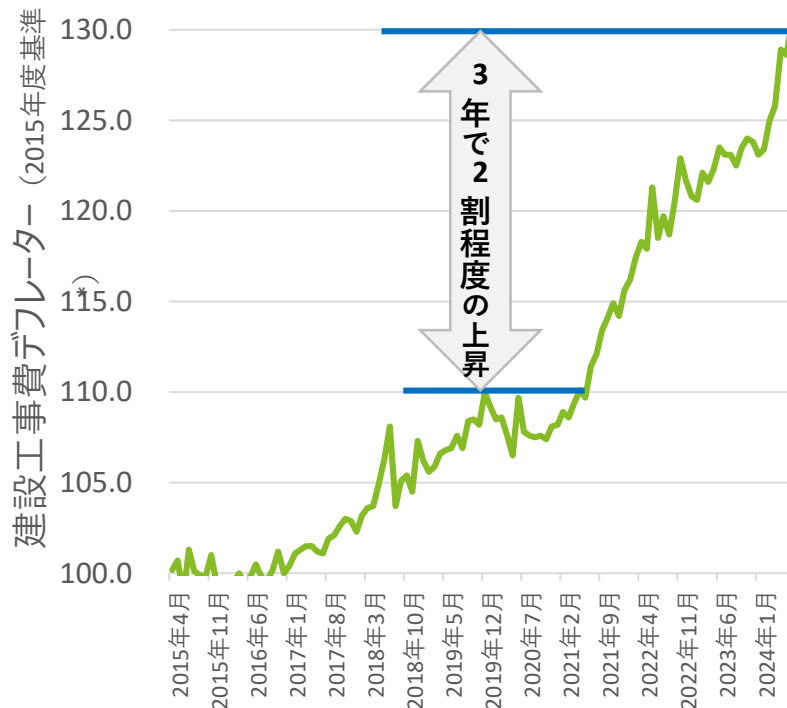
*建設費については、公表情報ベースでの数値の確認となっているため対象となる費用見積もりの範囲が異なる可能性があり、外構等の周辺整備費、（必要に応じて）土地の造成費、設計費、什器・備品なども含めた総事業費はもう少し高くなることが想定されます（現段階では、簡易試算であるため、概ねの金額感を計上）

なお、『福知山市新文化ホール基本計画』における概算単価は90万円～100万円の設定がなされており、近年の物価上昇も加味すると、さらに上昇している可能性も想定されます

近年、様々な要因から著しい物価上昇の傾向にあります イメージ用に用いた簡易試算の数値は2021年度以降の数値の平均を活用しているため、 現在単価で試算するとさらに高額な事業費になることに留意する必要があります

各種費用の留意点

近年は、多様な社会情勢変化の影響もあり、建設工事費が上昇し続けている状況です（2015年比で約3割上昇）。そのため、実際の契約発注のタイミングでは、事例等で掲載している席数と同等の席数で設定した場合でも、事例の建設費を上回る可能性が高い状況と言えます。



※国土交通省にて令和6年9月30日付けで公表された最新の建設デフレターをグラフ化して掲載
*2015年の各種数値を元に設定した基準値（2015年基準値が100）

参考_読売新聞オンラインの記事

「事業費100億円」文化会館新築を断念...実施設計の1億2000万円回収できず

2024/11/30 11:50

スクラップに追加

兵庫県豊岡市の新文化会館整備事業を巡り、開賢久仁郎市長は29日の市議会で、新築計画を断念する考えを明らかにした。事業費が当初の試算より大幅増となることが見込まれるのが主な理由で、既存の豊岡市民会館を大規模改修して対応する方針だ。（梶谷 聡）



新文化会館の新築断念に伴い、大規模改修の方針が示された豊岡市民会館（兵庫県豊岡市）

同市の中心的文化施設である豊岡市民会館（1971年完成）と、旧出石文化会館のホール機能を統合した新施設として計画。当初は2025年度の開館を目指していた。既に実施設計を完了している。

総事業費を約65億2000万円と試算し、昨年8月から3回にわたって建築工事の入札を実施したが、落札業者が決まらなかった。建築資材などの高騰や技術者不足が影響し、今年度になって総事業費を再試算した結果、90億円程度まで膨らむ見通しになっていた。

【本市の検討への影響】
近隣でも、物価上昇の影響も一つの要因として、事業の見直しを行っているなどのケースも出てきており、簡易試算の数値よりは高い事業費となる可能性が高い状況と言えます。

市によると、従来計画で新築すると、現状では総事業費が100億円程度かかると見込まれる。財政負担が大きく、「市民サービスに影響を及ぼす可能性がある」と判断したという。

今後、求められる施設規模に応じた総事業費等から、財政シミュレーションを行います。

第2回再検討委員会にて委員の皆さまからいただいた“規模”に関するご意見です

規模に関する意見 ※第2回再検討委員会終了後に「再検討のポイント」について委員の皆さまからペーパーでご提出いただいた資料から抜粋

- 大ホールとしては、上記の音響、防音、照明、600人規模の固定席等の確保で十分。
- 大か小かひとつに絞るのは難しい。大小二つのホールを作る、多目的なホールを一つ作る、など提案していきたい。
- プロの公演利用を望むため、1500席以上のホールにして欲しい。アマチュア利用のために、利用予定客席数に応じた臨機応変な料金体制で臨んで欲しい。
- 利用頻度と集客について、近隣施設の観客が1000人を超える著名人（主観による）の来演頻度は年間に1、2回が現状。利用の頻度の高い600から800席で、音楽、バレエ、演劇など、量より質のレベルを上げる。
- プロが利用出来るように最大1,500名～2,000名収容できるホールを検討するべき。
- ランニングコストも含めてもて余さず、小さすぎずの規模を考える。
- 今後の人口動態をシミュレーションしての判断（施設維持含む）。既存の団体のこれまでの利用実績等踏まえること（使用しなければ意味がない）。
- 単純に規模に応じてどのくらいの広さが必要で、どのようなことができるといったようなことをシミュレーションし、示して頂くとイメージがしやすいと思うが……やはり大きければ大きいほど、プロに相手にしていただける文化会館なのだと思うと、子どもたちの身近でプロの実力を体験できる機会は与えてあげたいと願いたくなります。

第2回再検討委員会にて委員の皆さまからいただいた“候補地”に関するご意見です

候補地に関する意見 ※第2回再検討委員会終了後に「再検討のポイント」について委員の皆さまからペーパーでご提出いただいた資料から抜粋

- 中学生、高校生が自転車でも来場できるような立地場所。市の将来的な「まちづくり」との整合性を図る必要あり。駐車場のスペースは、施設の規模で判断できる。現在の循環バス経路網も参考にしては。
- 市街地の場合、十分な駐車場敷地が確保できるかどうかもしっかり検討するべき。近隣の商業施設に無断駐車があってはならない。
- 福知山駅に直結で、歩いても行けるところがベストだと思う。催事の開演、閉演時間は、どうしても交通渋滞が生まれる。一般の方がなるべく自家用車を利用しなくとも来れる場所に建てるべきだ。
- まちづくりの観点からの考えが必要。多くの国家予算も投下して、町屋まちなみ、電柱地下化、お城、御霊神社など歴史資源、現厚生会館の場所を生かした町なか回遊の動線の市街地活性化。
- 一番利便性、集客力があり、市民が多く集える場所としては、福知山駅前が最適である。駅前の再開発まで視野を広げてP F I方式を検討すべきである。
- ターゲットを想定する。市内・近郊市町村からの利用を第一に想定するのであれば、駐車スペースを優先して検討し、京阪神地区からの利用を多く想定するのであれば駅からのアクセスを優先して検討。
- 次世代（特に青少年）が利用しやすい場所を視点に。まち全体ににぎわいをもたらす場所（交流）。
- 駐車場は現状の施設に対する最大の市民の不満の声だと思うし、キーポイントだと私は考える。私の勤務する施設で行事をする例をあげても「一人の子どもに対して3台の自家用車の駐車場を用意しなくてはいけない現状」また、いくら台数を減らしてほしい、離れたところにも駐車場を準備している等と案内したとしても、自己中心的な発想は止まることはない。近所のコンビニにでも車で行くような世の中に沿って、駐車できるスペースは限りなく規模に近い台数が必要だと思う。また、旧3町からの距離を考えると、他の交通機関の利用は難しく、自家用車の乗り入れが不可欠。循環バス利用客増といった効果もあるのだろうか？と想像はするが、運行時間に限りもあり文化会館利用と関連付けるのは難しいのでは。